

吐瀉物并ニ其器ヲ洗淨シタル水及ヒ吐瀉物ニ
添ミタル紙屑布片ハ溝渠下水芥溜田圃等ニ投
棄スヘカラス且ツ此吐瀉物他ノ腐敗物ニ混ス
ルトキハ其病毒ヲ醸成スルコト殊ニ甚シキヲ
以テ決シテ之ヲ尋常ノ便所ニ投シ健康ナル人
ノ糞尿ニ混スヘカラス總テ「虎列刺」病者ノ排泄
物ハ悉皆之ヲ取分ケ深ク土ヲ掘リテ之ヲ埋メ
十分ニ石炭酸末(第二)ヲ撒布シ然ル後土ヲ覆ヒ
雜草ヲ種ユヘシ又排泄物ヲ燒却スルハ殊ニ良
トス淺ク穴ヲ掘リ底ニ乾キタル藁或ハ鈹屑ヲ

六

千葉縣

布キ吐瀉物ヲ其上ニ投シ再ヒ藁或ハ鈹屑ヲ覆
ヒ石炭油ヲ灑キテ火ヲ點入火勢減スルキハ之
ヲ攪セ再ヒ油ヲ注キ全ク灰燼トナルノ後穴ヲ
填メ雜草ヲ種ルコト前ニ同シ但シ排泄ノ度毎
ニ斯ク埋却燒却スルヲ要セス積メ若干ノ容量
ニ至テ燒棄シテ可ナリ
排泄物ハ家屋井戸用水等ヲ距ルコト七間以上
ノ場所ニアラサレハ埋ムヘカラス且ツ一穴ニ
多量ヲ收ムヘカラス

(衣服夜具)洗濯ニ堪フベキ衣服ハ桶ニ入レ石炭酸

溶液(第五)ヲ瀧ギ浸シ置クコト一晝夜ニシテ更ニ熱湯ヲ注ギ煮ルコト四分時後水ニテ洗淨ス洗濯ニ堪ヘザル衣服ハ其品柄ニヨリテ亞硫酸瓦私(第八)或ハ石炭酸蒸氣(第七)ヲ以テ蒸蒸スベシ

〔虎列刺〕患者或ハ其死屍ニ觸レタル人ノ上衣ハ吐瀉物ニ汚染シタルニ非ザレハ汚染シタルモノニ從フ石炭酸溶液(第五)ヲ吹掛ケ或ハ海綿ニ浸シ拭ヒ然ル後刷淨シテ空氣ニ晒スヘシ

〔夜具〕ノ類モ石炭酸溶液ニ浸シ後煮沸洗淨スル

七

千葉縣

コト衣服ニ同シ其洗濯スベカラザルモノハ十分ニ石炭酸ノ蒸氣ヲ蒸シ或ハ溶液ヲ布片海綿ニ浸シテ洗刷スベシ

〔家具〕木材ノ具飲膳ノ具等ハ皆石炭酸水(第四)ヲ濯キ然ル後石鹼水ニテ洗淨シ乾カスヘシ其洗フベカラザルモノハ亞硫酸瓦私(第八)或ハ石炭酸蒸氣(第七)ニテ蒸シ或ハ石炭酸溶液(第五)ヲ海綿布片ニ浸シ拭淨スヘシ

總テ日常ノ家具ハ病室ニ入レテ一時ニ蒸蒸シ石炭酸水ヲ以テ洗淨スルヲ最良トス

(書籍新聞紙)ノ類病室ニアリタルモノハ開キテ石

炭酸蒸氣ヲ蒸スヘシ

(器械)外科産科ノ道具職人手道具ノ類ハ石炭酸水

(第四)ヲ以テ洗フヘシ

(食物)ノ汚レタルモノハ投棄スヘキ者居多ナリ或

ハ消毒法ヲ行フテ足ルモノアリ其筋ノ指圖ニ

隨フヘシ

(死屍)虎列刺病ニ斃レタルモノハ成丈速カニ片付

ケ十分ニ石炭酸溶液(第五)ヲ浸レタル木箱ヲ以

テ之ヲ包ミ健康ナル人ヲ近ツカシムヘカラス

八 千葉縣

棺ノ内ニハ多量ノ石炭酸末(第二)ヲ充テ時々石

炭酸溶液ヲ灌クヘシ

(第二)家屋敷前病室等

(部屋)虎列刺病者アル部屋並ニ死屍ヲ置ケル部屋

ハ十分ニ石炭酸蒸氣(第七)結晶酸ヲ蒸メ之ヲ滿

室ニ籠ムヘシ患者全快シ或ハ埋葬ノ後ハ先ツ

室中ノ金銀器書畫彩色物絹物等ヲ取除ケハ此品

ニ相當ノ消毒窓戸ヲ密閉シ火鉢ニ火ヲ盛リ其上

ニ硫黄ヲ置キ入口ヲ閉ツヘシ蒸氣スルヨト六

時至八時ニ火鉢ヲ除キ窓戸ヲ開キ少時ヲ經

肥前守
藤原公成
之印
之印

テ室内ノ諸物ヲ大氣中ニ持出シ敲キ拂フヘシ
天井建具等木製ノモノハ石炭酸水(第四)ヲ注ギ
石鹼水ヲ以テ洗淨シ後チ空氣ニ晒スヘシ
運送器具(虎列刺)病者或ハ其死屍ヲ運送シタル舟
車駕等ハ用フル度毎ニ石炭酸水(第四)ヲ以テ洗
ヒ或ハ石炭酸蒸氣(第七)亞硫酸瓦私(第八)ヲ蒸ス
ヘシ右ノ車駕中ニ具ヘタル器具ハ前條ノ消毒
法ヲ參酌シテ行フヘシ

(第三)便所芥溜下水等

(便所)ハ日々其糞池ヲ掃除シ十分ニ綠礬石炭酸ノ

九 千葉縣

合劑(第六)ヲ撒布シ再ヒ汚臭ヲ放ツヨ見ハ直ニ
之ヲ撒スヘシ

(芥溜)ハ流行前ニ掃除スヘシ既ニ流行ノ時ニ及テ
掃除スルハ攪擾シテ其惡氣ヲ揮發シ却テ害ア
ルコアリ靜定シテ時々其上ニ石炭酸末(第二)ヲ
撒布シテ之ヲ覆フヘシ或ハ掃除ノ時ニ臨ミ石
炭酸綠礬ノ合劑(第六)ヲ灌クモ亦良シ

(下水溝渠)ハ日々之ヲ疏通シ水ヲ灌テ洗淨スヘシ
甚シク汚穢ノ滯塞シタル所ハ石炭酸水(第四)ヲ
注グヲ良トス

右ノ通候事

明治十年九月十日

千葉縣

十

千葉縣

七第貳百六十七號

區長
戶長

本年縣廳乙第二百四十四號ヲ以常備新兵入營ノ
際病氣或ハ他ノ事故等ニテ入營難致者入營期限
初日ヨリ算シ往キ六十日ニ至リ入營難致者ハ翌
年徵兵ニ可差廻成規之處本年之儀ハ右成規ニ不
拘云々病氣全快事故既濟之者ハ本人工副戶長差
添出頭可致旨相違置候處右ハ詮議之次第有之本
人病氣全快事故既濟之者ハ即日其旨届書差出追

千葉縣

テ何分之儀相違候迄本人出頭ニ不及候條此段更
ニ相違候事

但本文之通病氣全快事故既濟之上即日届書差
出別段三十日毎ニ病氣全快事故既濟有無届出
ルニ不及候事

千葉縣令柴原和代理

明治十年九月十日

千葉縣少書記官岩佐爲春

乙字紙百六拾八號

區長
戶長

明治七年徵兵ニテ本年常備軍滿役後備軍ニ編入
可相成者共番號付着ノ都合有之征討平定各隊歸
營後常備服役差免後備服役申付候ニ付常備番號
之儘歸郷爲致置追テ成規ニ準シ後備割符ヲ製シ
引換授與可致旨陸軍省ヨリ被相違候條此段爲心
得相違候事

明治十年九月十一日
千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

第百六拾九號

區長
戶長

本年縣廳乙第貳百三拾三號ヲ以テ相違候質物臺帳へ質品明細帳兼用候節ハ帳簿ノ表紙へ質物臺帳兼質品明細帳ト記載シ而シ其初丁へハ印稅規則第三號書式ノ通其次丁へハ明細帳首葉書式ノ通記載候儀ト可相心得旨質屋營業ノ者へ可相違候此段相違候事

帳簿

千葉縣

明治十年九月十三日
千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

乙第二百七拾號

區長
戶長

正副區戶長區外巡回旅費日當左表ノ通假定候條
此段相違候事

但給與方ノ義ハ昨明治九年五月縣廳乙第四百拾
七號達ノ通可相心得事

明治十年九月十八日
千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

千葉縣

准等級	旅費等級	巡回	滞在
自十四等 至十七等	上等	四拾五錢	貳拾三錢
自等外一等 至等外四等	下等	三拾五錢	貳拾錢

乙第貳百七拾壹號

區長
醫務取締
戶長

神奈川縣下横濱ニ於テ傳染症虎刺列病ニ罹リ死
去候者有之趣同縣ヨリ通知有之候當縣ノ儀ハ該
地ト船舶ノ往復等最便捷ニ付自然右病毒傳播可
致モ難測ニ付本年縣廳乙第貳百六拾六號達ニ照
準相當ノ豫防法ヲ施行シ且衛生局報告第五號ニ
依リ夫々攝生候標區内人民ヘ速ニ示諭致シ置カ
一右ニ類似ノ病症發見候ハ、最密醫員ヲシテ其
症候ヲ供具セシメ急遽大區出張所及ヒ縣廳ヘ届
出候標豫テ注意可致候此段相違候事

明治十年九月十九日
千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

乙第貳百七拾貳號

區長

學區取締

戶長

明治九年縣廳乙第百拾七號達千葉師範學校定制
并ニ乙第百四拾貳號達小學定制中左之通改正增
損候條此段相違候事

明治十年九月二十日
千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

千葉縣

千葉師範學校定制中

教場規則

第一條 但書「二十日間」ヲ「十五日間」ニ改ム

小學校則

第一條 但書在學セシムノ下ヘシノ上ニ「六年未
滿ノ者モ亦入學ヲ許ス」ノ十三字ヲ加フ

第四條 第一行必スノ下ニ「レモ」ノ二字ヲ加フ

第五條 後見人ヨリノ下ニ「第壹號式ノ書面ヲ以

テノ十字ヲ加ヘ「證ヨリス」ニ至ル十壹字ヲ削ル
第七條 退校ヲ乞フ者ハノ下事實云々九字ヲ削
リ「第貳號式ノ書面ヲ以テ本校ヘ申出」ノ拾五字
ヲ加フ

第九條 暑中休ヲ夏季休業ニ改メ二十日間ヲ十
五日間ニ改ム

第十條 起業ノ下「時限」ノ二字ヲ加フ

第十二條 「諸病」ノ三字ヲ削リ症ヲ「病」ニ改ム

第十五條 參觀規則第一項中「通」ヲ「出」ニ改ム

第十六條 書籍ノ上ニ「學校所備」ノ五字ヲ加フ

二 千葉縣

第十七條 受業料ハノ下「公立小學校生徒受業料

收入規則ニ依リ之ヲ納ムヘシ」ニ改ム

第十九條 進級ヲ「及第」ニ改ム

第二十條 休日ノ間「業」ノ字ヲ插ム

第壹號書式

(用紙半紙)

入學願	
屬族名 <small>幾男 女</small> 弟姊妹	
苗字	名
何年何月 年號年月日生	
右入學相願候御許可ノ上ハ御規則遵守 可爲致候也	
屬族	
居住地名番號	
父兄 <small>或ハ後見人</small> 何之誰	
印	
年月日	
第幾番中學區幾番小學區	
何々小學校	
御中	

第貳號書式

三

退校願	
上下 等何級生徒	
苗字	名
何年何月	
右何々ノ儀ニ付退校爲致度候條此段相 願候也	
屬族	
居住地名番號	
父兄 <small>或ハ後見人</small> 何之誰	
印	
年月日	
第幾番中學區幾番小學區	
何々小學校	
御中	

尋常小學教則

下等小學教則

第二項 但書ヲ削ル

生徒試験法

第一條 「六月十二月」ヲ改メテ「四月十月」トシ尤以下貳拾三字ヲ削ル

第二條 ノ内以下七字ヲ削ル

第四條ヲ改ムル左ノ如シ

試験參觀者ハ左ノ條則ノ通心得ヘシ

一 參觀者ハ名刺ヲ本校ノ教師若シクハ小學校

四 千葉縣

事務掛ニ出シ許可ヲ受クヘシ

一 參觀中ハ起止靜肅生徒ノ心氣ヲ擾亂セシメ

ザルヲ要ス

一 參觀中ハ吹烟雜話スベカラス

但書從前ノ通り

第五條 刪除

第六條 「若干名」ノ三字及ヒ「置キヨリ轉シ迄」ノ十字ヲ削リ「招集シ」ノ下ニ「テ」ノ字ヲ加フ

第七條 「免狀」ヲ改メテ「證書」トス

第八條 試験優等ノ下「及ヒ及第」ノ四字ヲ削リ判

定ノ下「ス」ノ字ヲ削リルノ字ノ上ニ「シ」及第ハ獨
 リ當日ノ優劣ニヨリ之ヲ定ム」ノ拾八字ヲ加フ
 第十條 「處」ヲ所ニ改メ「唯」ノ字ヲ削ル

第十一條 但書ヲ削ル

第十三條 第五項第一行中「巧」ノ字ノ上「運筆」ノ二
 字ヲ加ヘ「筆」ノ「筆」ヲ「字」ニ改ム

試驗表式中落第ノ行讀物講義問答ノ兩桁「一」ヲ「
 一〇」ニ改メ點數ノ桁「一」ヲ「一〇」ニ改ム

第六項「四分ノ三」ヲ「三分ノ二」ニ改メ優等ノ下「生
 ノ字ヲ削リ「價」ノ字ヲ點ニ改メ「平時得點以下十

五
 千葉縣

字ヲ削ル

第七項「ニア」ノ「ニ」字ヲ「ナ」ニ改ム

第八九兩項ヲ削ル

第十四五六條ヲ加フルヲ左ノ如シ

第十四條 上等一級及ヒ下等一級ハ諸科復習
 ノ科ヲ試驗スル爲メ其點數ヲ増シ左ノ表ヲ
 用ユヘシ

上等一級試驗表式

等	級	讀物問答	算術	綴字	書法	復習	復習	復習	復習	平時	優等	名
		講義	講義	書取	書法	講義	講義	講義	講義	點數	及第	姓
		問答	法	文	術	問答	問答	問答	問答	第	第	

全	全	下上等一級
2	3	5
1	2	4
2	4	4
1	2	3
2	3	4
3	4	5
2	2	4
2	2	5
15	22	34
落 何ノ 年ノ 月誰	及 何ノ 年ノ 月誰	優 何ノ 年ノ 月誰

一 復習ノ科目ハ請書數學記簿法問答ニシテ各
最上等五點ト定ム餘ハ之レニ準ス

一 上等小學ニ於テハ數學一題ヲ減シテ記簿法
ヲ試ム點數調方ハ數學ニ同シ得點數ハ數學
點ニ合ス

一 上等第一級及ヒ下等第一級試験ハ試験點數
三十點以上平時得點三分ノ二以上ナルヲ優

六
千葉縣

等トシ試験點數十六點以上皆及第セシム

第十五條 每級及第ノ者ニハ第一號式ノ証書ヲ
與ヘ小學學科卒業ノ者ニハ別ニ第二號式ノ証
書ヲ與フルモノトス

第十六條 平素生徒得點表ヲ製シ置キ生徒日々
勤惰行狀學業ノ優劣ヲ判シ點數ヲ記載スヘシ

一 一日ノ點數ハ勤惰行狀學業トモ各三點ヲ以
テ基數ト定メ即一日ノ總得點ヲ九點トス

一 勤惰ハ全一日業ヲ受クル者ヲ三點トシ遲刻
上校スル者ヲ二點トシ半日業ヲ受クル者ヲ

一點トシ欠席スル者ヲ零トス
一學業行狀ハ各上中下三等ニ分テ上等ヲ三點
中等ヲ二點下等ヲ一點トシテ學業拙劣ナル
者及不行狀ナル者ヲ零トス
一一期即チ六ヶ月毎ニ平素ノ得點ヲ統計シテ一表ヲ
製シ原表ヲ併セテ試験ノ場ニ出スヘシ

料紙大奉書四ツ切
第一號證書式

何府 華族 平民 誰幾男 苗字名 明治年月 何年何月	印 學	上下 等小學第幾級卒業候事 第一大學區千葉縣管内 第幾中學區 何國何郡何村 第幾番何々小學 年號月日
----------------------------------------	-----	----------------------------------------------------------------------

料紙全上
第二號證書式

何府 華族 平民 誰幾男 苗字名 明治年月 何年何月	印 學	小學教科卒業候事 第一大學區千葉縣管内 第幾中學區 何國何郡何村 第幾番何々小學 年號月日
----------------------------------------	-----	--------------------------------------------------------------

乙第貳百七拾三號

區長
戶長

しつと八
ひより以

今回神奈川縣下於テ虎列刺病(俗ニ云)ニ罹リ死亡

候者有之追々傳染之趣報知相成候付テハ豫防ノ

爲メ當分之内他管下ヨリ乗船之旅客ハ勿論乗込

居候者ニテ病者有之該症ニ類似スルモノタラハ

右船ハ別紙ケ所ヲ除クノ外ハ上陸不相成候條其

心得ヲ以該所ヘ向ケ着岸候ハ、船主若クハ水夫

ノ内上陸致シ該所出張ノ警察官吏或ハ出張衛生

病
移
乙三百八十
二女

掛ノ内ヘ報知點檢ヲ受ケ差圖ニ任セ可申旨船乗
渡世ノ者ヘ無洩至急可相達候此段相達候事

明治十年九月廿日
千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春